

【 サザエの飼育を始めてからの水槽内の様子を取りまとめてみました。】

《#1》

● サザエのお食餌考

- 当方なりの観察結果ですが
海草(海藻)の部位形状によって摂取方法が異なることに気づきました。
- この気づきの記述にあたって 植物学上の正式名称で表記することは当方にとって困難を極めることとなりますので 《陸上植物の部位名称》を例えとして使用することにしました。 ご了承ください。

(1)それで とりあえず下掲の4形態に分類してみました。

①葉状で肉厚のもの

例えば アラメ では周辺部から 削り取り ます。

参考映像は「[サザエ観察\(#2\)](#)」をご覧ください。

<http://youtu.be/doMXGMGKoro> (但し 1:15 以降)

但し 歯舌には葉状のものに穴をあけるという機能を有しているとは判断できませんが
何らかの影響で葉状部位に円型の缺欠箇所のある場合は 同様に周辺部から削り取ってゆきます。

参考映像は「[サザエ観察\(4\)](#)」をご覧ください。

<http://video.fc2.com/content/20141114YDRCWm0x>

ワカメ(但し 市販の乾燥したもの)も同様です。

②極薄の葉状のもの

例えば アオサ では 腔内に押し込み 適宜本体と切り離します。

③細い棒状のもの

例えば 細く棒状に加工された乾燥アラメ では 飲み込む といった様子です。

ヒトの行為に例えれば麺類をすするといったような具合です。

④太い棒状のもの

例えば 生体アラメの莖や根 では

周囲から削り取って細くし 枯化(茶色化)していない部分は全て摂取します。

※ 潮間帯で採取される海草(海藻)は全て摂取しますが

昆布(但し 乾燥した市販されているもの) は摂取しませんでした。

(2) 海草(海藻)の色素に関する相違

緑色/紅色/褐色 の海草や海藻を取り混ぜてみました。

上記三種の投入量比率は 敢えて一定にしませんでした。

一度の投入総量は約2箇月間供給維持できる量です。

したがって その都度その場限りの容量比率であったのですが

結果は《必ず緑色のものが先に消失し 紅色と褐色のもの消失の進捗度合には大差が認められない》と判断される内容でした。

(3) 他器官との関連

効率の悪いと判断されるような摂食方法であることから 視覚器官がどのように機能しているのかに関心があります。

例えば《目的地に直進すればいいものを わざわざ回り道をするため 傍から見ればイライラする》といったような表現に置き換えられる様相を呈するのです。

※ 別途 他の行動様式《先ず直進ありき》を記述します。

この記述に関連して 視覚器官の映像を掲出します。

(4) 上掲「サザエ観察(#2)」の映像のうちの後日判明した事象

《何かに反応》した『何か』は

吐出(水)または排泄であることが判明しました。

一般的に 吐出か排泄であるかの判断は 現象の広範囲な観察が必要です。

(5) 歯舌の動き

更に 詳細な映像 です。 但し 最初の数秒間です。

<http://youtu.be/DGIlBIsvlaU>